

【 12 】

氏名	杉 浦 美 朗 すぎ うら よし ろう
学位の種類	教 育 学 博 士
学位記番号	論 教 博 第 13 号
学位授与の日付	昭 和 46 年 5 月 24 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	デューイにおける探究の研究 —教育方法の基礎研究—

(主査)
論文調査委員 教授 鯨坂二夫 教授 篠原陽二 教授 前田 博

論 文 内 容 の 要 旨

本論文はデューイにおける教育方法の本質ともいべき探究の理論についての研究である。

序論においてはデューイの教育方法の特徴である成長としての教育、および探究としての方法について述べ第I章では探究の本質、第II章では探究の母胎、第III章では探究の様相、第IV章では探究の構造、第V章では探究の単位、第VI章では探究の道具、第VII章では探究の要素、第VIII章では探究の結末を論じ、教育方法の要点の考察をもって結語としている。

第I章においては、まず探究とは何かという問題を包括的にとりあげ、それを自然の実験、支配の技術、状況の変容として論じている。

第II章においては、人間と自然との連続ならびに生命保持均こうの本質を論じ言語とコミュニケーションの機能の分析を試みている。

第III章においては、探究の先件としての不確定的状況、問題的状況、問題の設定、問題解決策の確定、推論、実験などの様相を検討している。

第IV章では探究の理論的構造を考察の対象としてとりあげ与件と観念の協働、観察と推論の協働、帰納と演繹の協働の検討を試みている。

第V章では判断の構成、肯定と否定、分量と測定、叙述と記述の四つの観点を、

第VI章では命題の種類、命題の秩序を、

第VII章では問題の秩序と名辞の種類を論じている。

第VIII章では最終判断としての安定した探究の結末がいかに陳述されるかを命題論的に考察している。

結語として探究の理論を教育の方法原理として活用するための基本条件としての教師の指導と生徒の態度に論及している。

その間、デューイ教育哲学の支持者、あるいは反対者の諸説が紹介され、それとデューイ自身の立場とを執筆者独自の見解において比較検討している。

論文審査の結果の要旨

執筆者は本論文においてデューイにおける教育方法の本質ともいべき探究の理論の解明につとめている。

主論は第I章から第八章に及ぶデューイの探究の理論についての検討であり、その論点を執筆者独自の分析によって配列し、構成しようと試みている。その論述はち密周到であり、その理解把握は的確である。

執筆者はその検討の成果を教育の実践に活用しようという意図を含めて分析を進めているが、主論に見る解明のち密さにくらべてこの点については今後の研究にまつものがある。

しかしながら、教育方法の基礎的研究として、その成果には見るべきものがある。

よって、本論文は教育学博士の学位論文として価値あるものと認める。